



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

2010. 6月号

2010年度 夏期特別展

市民が探る平塚空襲

—65年目の検証—

会期：2010年7月10日（土）～9月5日（日）

平塚市博物館では1989年以来、空襲体験者を含む市民らで構成される「平塚の空襲と戦災を記録する会」で平塚空襲の証言や資料の収集、実態調査を進めてきました。

本展示は平塚空襲から65年目を節目に、同会でこれまでに収集した空襲体験者の証言や記録資料などをもとに、その実態を検証します。

また、1995年の夏期特別展「44万7716本の軌跡—平塚の空襲と戦災—」以降に収集された資料や、新たに募集した体験者が描いた空襲体験絵画も展示します。65年を経て市民の手により明らかとなった平塚空襲の実態を多くの方に知っていただき、戦争と平和について考えていただければ幸いです。



空襲体験絵画 松本マサ子「渋田川へ向かって」



空襲体験者の証言を検証して戦災地図を作る「平塚の空襲と戦災を記録する会」会員

—関連行事（予定）—

7月17日（土）

フォーラム「平塚空襲を考える—沼津・富山の体験者ととともに」

8月7日（土）

記念講演会「なぜ、平塚は空襲されたのか」

講師：土井浩氏（元平塚市博物館長）

8月19日（木）

空襲の紙芝居と焼け跡の映像上演会

8月28日（土）

「炎の証言」朗読会

※詳細は次号でお知らせいたします。

寄贈品コーナー

七夕まつり 60 周年

七夕いまむかし

平塚の七夕まつりは、昭和 26 年（1951）に始まりました。その前身は昭和 25 年の「復興まつり」。戦災で大きな痛手を被った街の復興をめざしたものでした。その後祭りは夏の湘南を代表する風物のひとつとして、平塚市の発展に大きく貢献してきました。七夕まつり 60 周年を記念して、七夕と七夕祭りに関する資料を展示します。

<展示内容>

■豪華サイズくす玉飾り ■おりひめ・ひこぼしってどの星？ ■七夕の歴史 ■いろいろな七夕（人形ときもの） ■大磯町西小磯に伝わる貴重な七夕行事 ■たなばたの「神社」 ■詩歌でたどる七夕 ■短冊投句コーナー・他

場所：1 階展示室寄贈品コーナー

期日：6 月 19 日（土）～7 月 29 日（木）
（6 月 19 日は展示作業をご覧ください。
完成は夕方です）

6 月 19 日はみなさんの目の前で展示作業を行います。花で飾られたくす玉の構造がよくわかります。ご希望があれば、楠花作りに参加していただくのも OK です。

サイズは目抜き通りで飾られる、あの最大級のくす玉。目の前で見て、触れて、平塚のでっかい飾りを実感してください！

また、投句コーナーを設けます。来館記念に七夕を五七五で楽しみましょう。



足利織姫神社（写真:露木三恵子さん提供）

博物館へ地曳船がやってきた

5 月 16 日、平塚海岸から博物館へ地曳網の船が搬入されました。全長 9 m 80 cm、ミヨシ(舳先)の高さ 2 m 30 cm もの大型木造船です。事前に博物館のプレハブ倉庫にぎっしりと詰まっていた大型民具を城島分庁舎へ移動し、さらに倉庫の壁を取り壊し、天井板まではがして船の受入体制を整えました。寄贈されたのは、平成 19 年まで地曳を行っていた勘四郎網の船です。昭和 56 年に二宮町の二宮造船にて 145 万円で造られました。もはや和船をつくる現役職人は県内におらず、船大工の伝統技術を知る上でも貴重な資料です。

地曳網は平塚海岸の代表的漁業でした。昭和初期には 20 艘もの地曳船があったといわれています。それがシラス船曳き網の導入、漁獲の減少、漁師の高齢化などにより次々に姿を消していきました。最後まで漁を続けていた勘四郎網が休業し、数百年続いた平塚の地曳網の歴史は幕を閉じました。



松本重雄さんと勘四郎丸

網元の松本重雄さんは、10 代の頃から 60 年以上、地曳網一筋に生きてこられた方です。海と漁に関する松本さんの体験的知識も船と同じくらい貴重です。松本さんからお話を聞いて、この船の履歴書を作成していきたいと思います。網、綱、樽などの関連漁具も寄贈していただく予定です。完全な形の船、関連漁具、使用者の話し、この 3 つがすべて揃っていることでいっそう価値が高まります。この船を展示等で活用できるように、少しずつ整備を進めてまいります。

行事参加者募集

申込制の行事（往復はがきでお申し込みください）

○自然教室「葉脈標本を作ろう」

内 容：葉っぱを薬品で煮て、葉脈の標本を作ります。
日 時：6月19日（土）午後1時～3時
場 所：博物館科学教室
締 切：6月10日までに申し込みください。
定 員：15人（多数の場合抽選）
その他：小学生は保護者同伴のこと

○平塚の遺跡を歩く「土沢地区の遺跡」

内 容：土沢地区の遺跡や城館跡を探访します。
日 時：7月10日（土）午前10時～午後3時
場 所：土沢地区
締 切：6月25日までに申し込みください。
定 員：30人（多数の場合抽選）

○自然教室「金目親水公園で自然観察」

内 容：昆虫や植物の観察をします。
日 時：7月17日（土）午後1時～3時
場 所：金目親水公園
締 切：7月9日までに申し込みください。
定 員：15人（多数の場合抽選）
その他：小学生は保護者同伴のこと。雨天中止

* 申込方法：往復はがきに住所・氏名・電話番号と、希望する行事名を記入し、締切日必着でお申し込みください。

自由参加行事（事前申込は不要、自由に参加できます）

◎プラネタリウムで星座のソムリエになろう

内 容：夏の星座の特長や見える位置をプラネタリウムでおぼえましょう。
日 時：6月20日（日）午前9時15分～午前10時
場 所：プラネタリウム
対 象：中学生以下

◎ろばたばなし

内 容：民家のいろいろばたで昔話を語ります。
日 時：6月20日（日）
(1) 午後1時20分～ (2) 午後3時～
場 所：展示室1階「相模の家」

◎星を見る会「月食・土星を見よう」

内 容：部分月食と土星の環を観察します。
日 時：6月26日（土）午後7時30分～9時
場 所：科学教室・博物館屋上
その他：雨天曇天中止

◎星を見る会「七夕の星空に親しもう」

日 時：7月2日（金）午後7時～8時30分
場 所：見附台広場
その他：雨天曇天中止

博物館資料のくん蒸作業のため休館します 休館期間：6月8日（火）～6月18日（金）

博物館が所蔵する資料は、地域の大切な財産です。この資料を虫やカビの害から守るために、必要に応じて「くん蒸」という作業を行なっています。資料に対しては影響の少ない薬剤によって、殺虫殺菌処理をするものです。本年は、5つの収蔵室のうち3つの収蔵室に対してくん蒸を実施します。これにともない、6月8日（火）から18日（金）の期間を休館とさせていただきます。休館中、館内への立入はできませんが、電話やメールでのお問い合わせには応じることができます。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

浜口哲一さんを悼む

当館の前生物担当学芸員で元博物館長の浜口哲一氏が5月3日に肺がんのため死去されました。享年62歳。

浜口さんは、当博物館には建設準備室時代の1973年より勤務され、生物部門の学芸員として、2002年4月からは学芸担当長、2005年4月～2008年3月には館長を務めるなど、永く当館の活動を牽引してこられました。「放課後博物館」という概念を掲げ、当館の中心理念でもある新しい地域博物館像を追求し、先頭に立って活動を推進してきました。

なかでも地域の人々との共同調査活動「みんなで調べよう」では、平塚を中心とした地域のタンポポ、セミ、カエルなどの動植物の分布と都市化の関係を調査研究し、関連した特別展、行事を数多く手がけました。また、1990年より始めた「漂着物を拾う会」は、海岸をフィールドにした観察事業として注目されました。

定年退職後も神奈川大学理学部教授として調査に、観察に、執筆にまだまだ活躍の場を広げられ、当館にも多くの助言をいただけるものと信じておりましたが、今春よりご病気が悪化し、去る5月3日夜闘病の甲斐なく逝去されました。ご遺族の苦衷を推察申し上げるとともに、当館への生前の貢献に改めて敬意を表し、哀悼の情を申し上げます。

